

染の職人の高齢化や後継者不足を考えると新しい技術導入が必要との判断だった。

京友禪の振袖は、一つの生地が柄12カ所25色などのデザインがあり、旧式擦染なら型代だけで100万円かかるケースもざら。毎年新柄を起すが、消費が多様化し小ロット化により、型コストが重くのしかかってく

〜システムの幅も広がっている

インクジェット化は版下が必要になる一方、新たな投資を必要とする面もある。デジタルのデザイン処理に関わる人材だ。時代に合った凶案のアレンジや出力調整を手掛けるが、感覚を養うのに3、4年は修行が必要という。野村染工では美大出身などの人材を現在7人まで増やし、強化している。

アクトレス、サイト
スタイル・システムズ

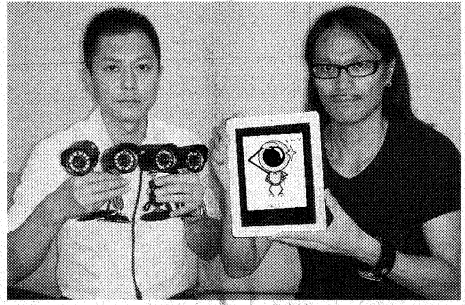
「検証くん」を開発

防犯カメラと店舗運営・
VMD教育ツールをセット

サポート
ビジネス

素材・アパレル・雑貨メーカーの展示会プロデュースとVMD教育事業を手掛けるアクトレス視覚提案仕掛人集団（星野孝司社長）は、アパレルや飲食業などのチェーン店に防犯カメラを販売するサイトスタイル・システムズ（富田桂之社長）と共同で、アパレル業向けにMDP（マーチャンダイズ・プレゼン

「検証くん」のキャラクターを持つ星野社長（右）と防犯カメラを持つ富田社長



テーション）店舗ツール「検証くん」を開発し、販売を始めた。防犯カメラと店舗運営・VMD教育ツールをセットにした新サービスだ。ネットワークカメラで一定期間、店舗の画像情報を収集し、顧客の導線や動向、スタッフの動き、店舗環境を分析し、サービス向上や売の場改善策を提案する。低い初期投資で質の高いVMDコンサル

ディングを実現する。

店内にカメラ4台（録画装置付き）を設置し、アイフォーンやiPadなどを通じて誰でも画像情報が見られる。ワンセットで月額レンタル料は3980円。「日本でこれまでにない相当安い価格」（富田社長）で、アクトレスのコンサルタン料は、1社当たり平均月額10万円相当という。

販売対象の重点はアパレル専門店チェーン。中国やアジアでの展開にも生かせる。海外での販売価格体系は国内と基本的に変わらないが「工事費は含まない」。

開発の背景を富田氏は「アパレルの防犯意識を調べた結果、市場の30%しか防犯カメラを導入していない。飲食業界の方が意識も高い」、星野氏は「データ解析をしていると、店舗別や時間帯により不必要な人員も把握でき、適正人員配置にも役立つ」。

繊維・アパレル製品
輸入比率を高める

近鉄エクспレス

近鉄エクспレスは、海外から日本に入る繊維・アパレル製品の扱い比率を高める。輸入貨物量を増やし、コンテナの契約価格を引き下げ、港でのカットオフの時間を遅らせ、小口の混載貨物の対応を強化する。今年6月には専門のアパレルチームを社内が発足させ、人材の育